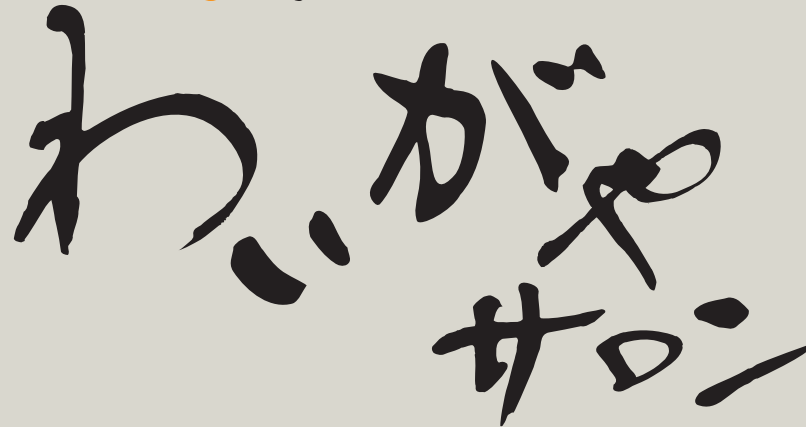


- 第1回／佐倉 一徳さん NHK長野放送企画総務部副部長 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課長
- 第2回／久米 えみさん ながのクラッセ会長 樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回／鷲沢 幸一さん アスレながの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協合理事
- 第4回／清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター
- 第5回／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルウェーダ・健康セラピスト
- 第6回／竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]
- 第7回／木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回／荻原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回／松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究所 准教授
- 第10回／松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回／浜 このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回／角本 浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士协会会长
- 第13回／針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回／水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回／バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
- 第16回／町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回／中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回／塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回／小出 陽子さん (同)ふぎっ子のお八起 代表 / 信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回／宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役 / 木の花屋
- 第21回／志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ 代表理事
- 第22回／薩川了洋さん AC長野パルセイロ新監督
- 第23回／石沢 一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回／新谷 志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回／越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回／鈴木 政一さん 長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回／千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回／川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表
- 第29回／安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野隊長(第二次派遣隊)
- 第30回／マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者
- 第31回／井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
- 第32回／田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役
- 第33回／飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営
- 第34回／相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会頭
- 第35回／小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務
- 第36回／薩川了洋さん AC長野パルセイロ監督
- 第37回／小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員
- 第38回／塩澤 研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役(財)いのちの森文化財団 副代表理事
- 第39回／俣田 達男さん NTT東日本 長野支店長
- 第40回／山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役
- 第41回／藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家
- 第42回／矢澤 秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
- 第43回／近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長
- 第44回／栗田 貞多男さん 写真家
- 第45回／鴨志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長
- 第46回／天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授
- 第47回／美濃部 直彦さん AC長野パルセイロ監督
- 第48回／丸田 勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長
- 第49回／浅野 邦子さん 株式会社 第一 代表取締役会長
- 第50回／平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

- 第51回／本田 美登里さん AC長野パルセイロ・レディース監督
- 第52回／小田 與之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長
- 第53回／廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長
- 第54回／羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役
- 第55回／中島 麻希さん 1級フードアナリスト
- 第56回／齋藤 安彦さん 宮司
- 第57回／屋敷 陽太郎さん NHKチーフプロデューサー
- 第58回／平山 優さん 歴史研究者
- 第59回／西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー
- 第60回／広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表
- 第61回／浅野 哲也さん AC長野パルセイロ監督
- 第62回／中島 恵理さん 長野県副知事
- 第63回／服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー
- 第64回／平尾 勇さん 長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)
- 第65回／野池 裕子さん ダイヤモンド・セルフ長野ファースト 代表 講師
- 第66回／愛甲 宏明さん 炭平コンピュータシステム株式会社 代表取締役社長
- 第67回／坂橋 克明さん フリーバーソナリティー
- 第68回／宮下 秀樹さん 株式会社守谷商会 執行役員、国立長野高専客員教授
- 第69回／金田一 真澄さん 公立大学法人 長野県立大学 学長
- 第70回／笹本 正治さん 長野県立歴史館 館長
- 第71回／山本 克也さん 長野市芸術館 総支配人
- 第72回／AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ・優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第73回／山浦 直人さん 土木・環境しなの技術支援センター理事、長野県立歴史館客員学芸員
- 第74回／松本 克幸さん 協栄電気興業(株) 取締役副会長
- 第75回／大室 悦賀さん 長野県立大学グローバルマネジメント学部教授/ソーシャルイノベーション創出センター長
- 第76回／AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ・優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第77回／水間 源さん 東御市役所 地域おこし協力隊
- 第78回／小澤 吉則さん 一般財団法人 長野経済研究所 理事・調査部長
- 第79回／AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ・優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第80回／森田 舞さん ゆめサボママ@ながの 共同代表
- 第81回／新井 精一さん 千広建設株式会社代表取締役



通信

Vol. 82
2021.10



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第82回 光彩一瞬 傘寿の記念写真集への思い

講師／竹内 伊吉さん 大成産業株式会社 代表取締役社長

■進行：鈴木 隆治 場所／長野ホテル犀北館 本館2階広間 10月22日(金) 18:00~20:00

8月30日に予定していた第82回わいがやサロンは全県発出された「新型コロナウイルス特別警報」に伴う協力要請に従って延期し、警報解除を受けて開催の運びとなったのは冬を思わせるような神無月の宵、講師が昨年上梓された『光彩一瞬』の全写真100点余それぞれの撮影にまつわるお話を聞きつつ鑑賞しました。

私と写真との関わりは50年ほど前の白黒フィルムカメラから始まります。昭和39年(1964)に大成産業(株)を興して土地の開発を手掛け、その後、分譲マンションの販売を開始。グランドハイツシリーズのグランドハイツ七瀬(1978)から表参道式番館(2005)まで同シリーズだけでも32棟1300戸以上の分譲を続けてきました。マンション販売には宣伝、パンフレット等が必要で、そのための写真を撮るようになったのが写真撮影に真剣に取り組んだきっかけです。それに並行して趣味で風景写真を撮るようになりました。

今まで撮影した写真は数千点に及びます。その中から気に入った作品を選び、写真集を出してはどうかという話が親



序章より「八方尾根 御来光」(白馬村)



春の光彩より「光林寺枝垂桜」(長野市篠ノ井)



夏の光彩より「杉並木の参道」(戸隠神社)

交深い写真家の栗田貞多男氏からあり、昨年が私にとって傘寿という人生区切りの年でもあるので思い切ってまとめたわけです。このたびNUPRI会員の皆さんの前で発表する機会を与えていただき有り難うございます。

序章

写真を撮るうえで大切なのが光——対象に日が当たっているといくら絞っても自然の色や奥行きが出ないんですね。それで私は夜明け前にカメラをセットし、朝陽が上がる前、あるいは日が出る瞬間を押さえることが多いです。

第一章 春の光彩

生まれ故郷・信州は四季の変化に富み、山、川、湖、花など素晴らしい題材に事欠きません。そんなわけで前半は県内、特に長野市周辺の写真を集め、四季で分類してみました。

構図も写真にとって重要です。「光林寺枝垂桜」は構図を意識して寺の門を真正面に置き、逆光で撮って見たら、それが生きて枝垂桜の古木ならではの春の情感も出たように思います。

第二章 夏の光彩

被写体の奥と手前に焦点を合わせるには光の弱いうちにやらないとシャッターチャンスを失ってしまいます。その点をクリアしたアジサイを序章の表紙に、そして「夏の光彩」にも2枚入れました。花の色合い・立体感、奥行き等を楽しんでいただけたらと思います。

私は風景写真が好きで、それもほとんど人を入れずに撮るのですが、戸隠神社の奥社「杉並木の参道」では、たまたま歩いていた観光客を肖像権に配慮して写しました。人がいることによって杉がいかに大きいかを表せ、雄大な写真になりました。



たけうち いきち 1940年、長野市中条生まれ。長野県立長野工業高校卒業。1964年、大成産業株式会社を創業。1978年より長野市街地に分譲マンションの開発販売等を手掛ける。現在、同社代表取締役社長ほか、社会福祉法人 大志会理事長、医療法人 百藤会(老健インターコート藤)常務理事、医療法人 藤美会(老健すめらぎ)常務理事副理事長を務める。

第三章 秋の光彩

信州の秋は本当に彩り豊かです。山々の錦、赤ソバの花・・・飯山市瑞穂で撮った大イチョウは黄葉したイチョウの木の下に黄色い落ち葉が広がっていますが、樹上と地面ともにたっぷりした黄色のタイミングは案外難しく何日も出向きました。地続き後方の人や車とのバランスも面白いと思います。

朝日も一瞬ですが、戸隠高原にソバを撮りに行ったら虹が出た!まさに一瞬の出来事でした。さまざまな紅葉の風景を載せましたが、同じ場所でも同じ写真は2度と撮れません。



秋の光彩より「秋色・神戸の大イチョウ」(飯山市瑞穂)

第四章 冬の光彩

小川村の名刹・高山寺の冬景色2枚です。三重塔の上方、九輪・水煙のバックが白い円になっているのがわかりますか? コレ、太陽でなく、後光が差していたのです。珍しい写真が撮れました。

モンスター樹氷は蔵王が有名ですが、長野で撮ってやろうと挑戦したのが志賀や菅平高原の写真です。雪上車でスキー場の一番上まで行き、パウダースノーを滑って楽しむのではなく、スキーに履き替えて重たいカメラを担いで4、5km、アイスバーンをエッジで転ばないようにして進んで目的地へ。こうなるとズクがあるというより物好きかもしれませんね(笑)。



冬の光彩より「高山寺三重塔、雪化粧」(小川村道平)

第五章 表参道風情

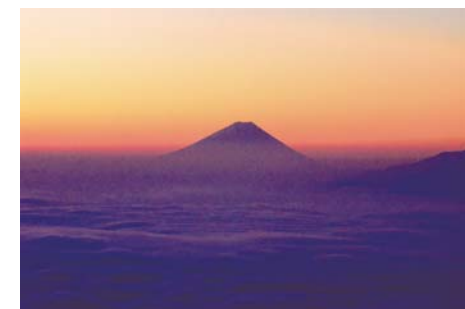
扉には「善光寺への誘い」と題した、大門付近の夕方の一瞬を捉えた写真を選びました。夕方5時から明かりがつくのですが石畳の質感を出すためには、まだいくらか明るい時間でないといけない(と分かるのは何回も撮影しての後でした)。「古えの時(1)(2)」を見た方に「風情あるねえ、こどここ?」と訊かれ、「長野だよ」と答えると驚かれました。皆さんはどうでしょうか? 風景写真のポイントは時間、それと人がいても苦にならない程度にすることだと思っています。「表参道、和と洋の調和」——グランドハイツ壱番館は昔の雪国の建築法である雁木が設計コンセプトでした。赤や白、黄金色の明かりが「雨に映り込む表参道」でこの項をメました。



表参道風情より「表参道、和と洋の調和」

第六章 旅情日本

日本といえば、やはりフジヤマ! ほうほうで撮りました。県内では高ボッチ高原で写した「黎明 富士山と雲海」を掲載。雲海に浮かぶシルエットに感動しました。



旅情日本より「黎明、富士山と雲海」(塩尻市高ボッチ高原より)

第七章 世界紀行

海外へも当然カメラを携えて行きました。イギリス・スコットランドでは有名なゴルフ場「セント・アンドリュース」のオールドコースやホテルの全景が入る撮影場所で焦点を合わせました。初めて撮影ツアーというものに参加したのは「アイスランド・オーロラの旅(6泊7日)」です。プラズマ・磁気からなるオーロラの光はいつでも飛んでいるようですが条件が揃ったときに見える自然現象のため、旅行中に撮れる保証はナシ。カメラをスタンバイさせて3日目にして現れてくれました。

時間が来ましたので、もし質問があればお応えします。

Q: ベストショットは?

A: 「赤富士」です。いつもはカメラマンと三脚で足の踏み場もない場所になぜかその日は私一人でした。待っていると、ほんの一瞬、赤くなりシャッターを押しました。拜めることもなかなか難しいのに写せたのは幸運というほかありません。

Q: ここまではまったのはなぜ?

A: 私の場合、写真は「撮る」というより獲物を「獲る」、感覚に近く、狙ったものを撮れた達成感を忘れられず、また「オモシロイ、から長年撮り続けてきたんだと思います。

会場に大きく映し出された趣味の域を超える写真の数々に魅入りました。講演後はマスクを外して軽食とマスクを付けての会話を楽しみました。



世界紀行より「変幻するオーロラ(Ⅲ)」(アイスランド)

